

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月14日

【四半期会計期間】 第34期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 時機

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安部 一夫

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安部 一夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第33期 第2四半期 連結累計期間		第34期 第2四半期 連結累計期間		第33期	
		自 至	平成22年4月1日 平成22年9月30日	自 至	平成23年4月1日 平成23年9月30日	自 至	平成22年4月1日 平成23年3月31日
売上高	(千円)		8,773,445		7,354,636		16,845,218
経常利益又は経常損失()	(千円)		258,020		223,776		182,386
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失()	(千円)		289,145		292,072		165,356
四半期包括利益又は包括利益	(千円)		287,433		290,834		169,970
純資産額	(千円)		5,318,445		4,908,729		5,199,903
総資産額	(千円)		15,277,760		14,060,606		14,881,362
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額()	(円)		13.51		13.65		7.73
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		13.23				7.57
自己資本比率	(%)		34.8		34.9		34.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)		342,052		159,164		450,894
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)		36,954		11,836		325,497
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)		432,668		335,844		814,210
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)		975,673		508,341		991,516

回次		第33期 第2四半期 連結会計期間		第34期 第2四半期 連結会計期間	
		自 至	平成22年7月1日 平成22年9月30日	自 至	平成23年7月1日 平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	(円)		5.63		9.66

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第34期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

4. 第33期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、一部景気に持ち直しに向けた動きが見られるものの、雇用回復の鈍化、海外景気の下振れ、デフレ継続の下での止まらない円高傾向など、様々な悪条件が生じ、先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループの主力事業である外食業界におきましても、消費者の節約志向は依然として強く、また、他社焼肉チェーン店における集団食中毒事件の余波が残る中、放射性セシウムが牛肉から検出されたことによる焼肉を控える傾向等の大きな影響がありました。

当社では、これまでも川上から川下にいたるサプライチェーン組織の各段階における衛生管理を徹底し、販売する商品に対して万全の体制を構築してまいりましたが、従来にも増して衛生・品質管理の向上を推し進め、より一層の「安全・安心」の提供を行うとともに、お客様からのより一層のご理解、ご支持をいただける様、努めてまいりました。

また、このように提供する商品の「安全・安心」に加えて、おもてなしの心を込めた接客や店舗空間のあり方についても、時代に対応した新たなものに変革するために、人材の採用や教育の改善等を鋭意進めてまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高73億54百万円（前年同四半期比16.2%減）、営業損失1億68百万円（前年同四半期は営業利益3億33百万円）、経常損失2億23百万円（前年同四半期は経常利益2億58百万円）、四半期純損失2億92百万円（前年同四半期は四半期純利益2億89百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次の通りであります。

安楽亭業態

当第2四半期連結累計期間に1店舗を新規出店し、4店舗を閉鎖した結果、安楽亭業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は204店舗であります。内訳は直営165店舗、暖簾5店舗、FC34店舗であります。

販売促進並びに商品開発につきましては、「『安楽亭×劇場版戦国BASARA×戦国BASARAクロニクルヒーローズ』あの大迫力が今、甦る！！復活！でかつ焼肉フェア」や夏の一押しデザートとしてアップルマンゴーをたっぷり使用した新デザートの開発、「飲み放題800円」や「上タン塩も食べ放題」などの人気の食べ放題企画、「超特価クーポン祭り」、「韓流焼肉フェア」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアを行ってまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は62億41百万円（前年同四半期比16.0%減）となり、セグメント利益は56百万円（前年同四半期比89.0%減）となりました。

七輪房業態

七輪房業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は24店舗であります。内訳は直営21店舗、暖簾1店舗、FC2店舗であります。

販売促進並びに商品開発につきましては、「期間限定！行楽焼肉セット」等、七輪房の楽しさを伝えるフェアを開催してまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は8億8百万円（前年同四半期比16.9%減）となり、セグメント利益は8百万円（前年同四半期比88.6%減）となりました。

その他業態

その他業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は19店舗であります。内訳は直営9店舗、暖簾3店舗、FC7店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋(焼肉)」、「TERRAPLATE(焼肉)」、「楽コンセプト(焼肉)」、「まんぼく(焼肉)」、「国産牛カルピ本舗安楽亭(焼肉)」、「和牛カルピ屋(焼肉)」、「V a r i e(ステーキ・ハンバーグ)」、「カフェビーンズ(喫茶)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「龍饗(中華)」等を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は3億4百万円（前年同四半期比16.9%減）となり、セグメント損失は28百万円（前年同四半期はセグメント損失2百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ8億20百万円減少し、140億60百万円となりました。これは主に、現金及び預金が減少したこと、有形固定資産の減価償却、敷金及び保証金が減少したこと等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ5億29百万円減少し、91億51百万円となりました。これは主に、借入金の減少及び設備購入に係る割賦未払金の支払により割賦未払金及び長期割賦未払金が減少したこと等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ2億91百万円減少し、49億8百万円となりました。これは主に、四半期純損失の計上によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度と比べ4億83百万円減少し、5億8百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失の計上2億円、仕入債務の減少額79百万円等により、1億59百万円の支出となりました。前年同四半期は3億42百万円の収入でありました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が53百万円ありましたが、敷金及び保証金の回収による収入89百万円等により、11百万円の収入となり、前年同四半期と比べ25百万円（前年同四半期比68.0%）の収入の減少となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出1億99百万円、割賦債務の返済による支出1億11百万円等により、3億35百万円の支出となり、前年同四半期と比べ96百万円（前年同四半期比22.4%）の支出の減少となりました。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,504,347	21,504,347	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は 1,000株であります。
計	21,504,347	21,504,347		

(注) 提出日現在発行数には、平成23年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日		21,504,347		3,182,385		147,735

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
豊山開発株式会社	さいたま市中央区上落合二丁目3 5	2,604	12.10
柳 時機	さいたま市浦和区	1,710	7.95
アサヒビール株式会社	墨田区吾妻橋一丁目2 3 1	1,001	4.65
柳 允	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 允 寿	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 詠 守	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 京	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 先	文京区小日向	559	2.60
柳 朱 理	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 俊 勲	さいたま市浦和区	559	2.60
株式会社サリックス	さいたま市中央区上落合二丁目3 5	523	2.43
ゆたか建設株式会社	越谷市南越谷一丁目1 7 5	387	1.79
柳 恵 引	さいたま市浦和区	330	1.53
柳 慧 承	さいたま市浦和区	330	1.53
柳 賢 承	さいたま市浦和区	330	1.53
計		11,138	51.79

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 108,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,191,000	21,191	
単元未満株式	普通株式 205,347		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	21,504,347		
総株主の議決権		21,191	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式500株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2 - 3 - 5	108,000		108,000	0.50
計		108,000		108,000	0.50

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアにより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	994,530	511,355
受取手形及び売掛金	245,125	212,135
商品及び製品	104,457	111,377
仕掛品	255	317
原材料及び貯蔵品	282,458	287,613
前払費用	242,479	229,067
繰延税金資産	58,729	2,808
その他	162,878	179,845
貸倒引当金	1,325	-
流動資産合計	2,089,590	1,534,522
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,006,962	2,886,344
機械装置及び運搬具（純額）	23,610	22,131
工具、器具及び備品（純額）	97,694	87,046
土地	6,002,292	6,002,292
リース資産（純額）	25,488	22,896
建設仮勘定	5,136	4,208
有形固定資産合計	9,161,185	9,024,920
無形固定資産	99,273	100,585
投資その他の資産		
投資有価証券	61,443	62,765
長期貸付金	936,748	912,329
長期前払費用	31,430	32,089
繰延税金資産	11,842	10,671
敷金及び保証金	3,186,736	3,055,632
その他	62,274	64,959
貸倒引当金	759,163	737,870
投資その他の資産合計	3,531,313	3,400,578
固定資産合計	12,791,771	12,526,084
資産合計	14,881,362	14,060,606

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	377,128	297,280
短期借入金	6,976,846	6,926,782
リース債務	5,896	5,443
割賦未払金	196,139	122,842
未払金	252,100	273,175
設備関係未払金	46,512	48,742
未払費用	471,372	418,404
未払法人税等	89,837	55,506
未払消費税等	48,038	81,468
賞与引当金	77,000	56,500
その他	149,235	80,824
流動負債合計	8,690,109	8,366,971
固定負債		
長期借入金	350,904	180,509
リース債務	21,319	18,597
長期割賦未払金	67,303	25,656
繰延税金負債	131,938	131,964
退職給付引当金	112,036	114,554
役員退職慰労引当金	236,862	242,639
その他	70,985	70,985
固定負債合計	991,349	784,906
負債合計	9,681,458	9,151,877
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,359	2,537,261
利益剰余金	435,057	727,130
自己株式	66,164	66,105
株主資本合計	5,218,523	4,926,411
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,520	25,282
その他の包括利益累計額合計	26,520	25,282
新株予約権	7,900	7,600
純資産合計	5,199,903	4,908,729
負債純資産合計	14,881,362	14,060,606

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	8,773,445	7,354,636
売上原価	3,157,553	2,711,774
売上総利益	5,615,891	4,642,861
販売費及び一般管理費	5,282,184	4,811,240
営業利益又は営業損失()	333,707	168,379
営業外収益		
受取利息	20,856	17,800
受取配当金	745	745
受取地代家賃	5,522	5,353
貸倒引当金戻入額	-	1,553
その他	16,546	16,010
営業外収益合計	43,671	41,463
営業外費用		
支払利息	111,382	90,667
その他	7,975	6,193
営業外費用合計	119,357	96,860
経常利益又は経常損失()	258,020	223,776
特別利益		
固定資産売却益	-	2,449
貸倒引当金戻入額	16,797	-
賞与引当金戻入額	418	-
受取補償金	48,176	30,464
特別利益合計	65,392	32,914
特別損失		
固定資産除却損	459	1,298
減損損失	1,907	-
投資有価証券評価損	100	-
賃貸借契約解約損	219	8,004
特別損失合計	2,687	9,303
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	320,726	200,165
法人税、住民税及び事業税	30,731	34,815
法人税等調整額	848	57,091
法人税等合計	31,580	91,907
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	289,145	292,072
四半期純利益又は四半期純損失()	289,145	292,072

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	289,145	292,072
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,712	1,237
その他の包括利益合計	1,712	1,237
四半期包括利益	287,433	290,834
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	287,433	290,834

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	320,726	200,165
減価償却費	223,219	206,175
減損損失	1,907	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	16,797	2,772
賞与引当金の増減額(は減少)	1,100	20,500
退職給付引当金の増減額(は減少)	1,347	2,518
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	15,883	5,776
受取利息及び受取配当金	21,601	18,546
支払利息	111,382	90,667
為替差損益(は益)	5	3
有形固定資産売却損益(は益)	-	2,449
投資有価証券評価損益(は益)	100	-
受取補償金	48,176	30,464
固定資産除却損	459	1,298
賃貸借契約解約損	219	8,004
売上債権の増減額(は増加)	16,899	32,990
たな卸資産の増減額(は増加)	53,109	12,138
前渡金の増減額(は増加)	16,527	22,380
仕入債務の増減額(は減少)	32,003	79,848
未払金の増減額(は減少)	49,499	21,150
未払消費税等の増減額(は減少)	5,042	31,779
未払費用の増減額(は減少)	3,472	53,423
預り金の増減額(は減少)	61,993	57,721
その他	16,706	12,200
小計	449,887	43,083
利息及び配当金の受取額	19,706	17,013
利息の支払額	99,595	89,475
補償金の受取額	38,540	30,464
店舗閉鎖に伴う支払額	-	8,004
法人税等の支払額	66,486	66,079
営業活動によるキャッシュ・フロー	342,052	159,164

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1	0
有形固定資産の取得による支出	40,883	53,113
有形固定資産の除却による支出	382	1,177
有形固定資産の売却による収入	-	2,449
無形固定資産の取得による支出	16,108	15,027
投資有価証券の取得による支出	55	57
敷金及び保証金の差入による支出	-	5,000
敷金及び保証金の回収による収入	71,556	89,652
貸付金の回収による収入	12,680	652
預り保証金の返還による支出	510	-
預り保証金の受入による収入	300	-
投資その他の資産の増減額（は増加）	10,357	6,541
投資活動によるキャッシュ・フロー	36,954	11,836
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	21,000	21,000
長期借入金の返済による支出	189,841	199,459
割賦債務の返済による支出	220,354	111,795
リース債務の返済による支出	-	3,175
自己株式の取得による支出	747	245
自己株式の売却による収入	-	206
配当金の支払額	145	74
その他	580	300
財務活動によるキャッシュ・フロー	432,668	335,844
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	3
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	53,667	483,175
現金及び現金同等物の期首残高	1,029,340	991,516
現金及び現金同等物の四半期末残高	975,673	508,341

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
偶発債務 連結会社以外の会社の金融機関からの借入金に対して、次の通り債務保証を行っております。 株書楽 242,531千円	偶発債務 連結会社以外の会社の金融機関からの借入金に対して、次の通り債務保証を行っております。 株書楽 231,857千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
1 販売費及び一般管理費の主なもの	1 販売費及び一般管理費の主なもの
減価償却費 204,823千円	減価償却費 186,283千円
賞与引当金繰入額 54,803千円	賞与引当金繰入額 26,792千円
退職給付引当金繰入額 6,173千円	退職給付引当金繰入額 6,746千円
役員退職慰労引当金繰入額 4,508千円	役員退職慰労引当金繰入額 5,776千円
給料手当 2,441,285千円	給料手当 2,203,232千円
地代家賃 1,167,303千円	地代家賃 1,112,181千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金 978,687千円	現金及び預金 511,355千円
預入期間が3か月超の定期預金 3,014千円	預入期間が3か月超の定期預金 3,014千円
現金及び現金同等物 975,673千円	現金及び現金同等物 508,341千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	7,433,293	973,014	367,137	8,773,445	8,773,445		8,773,445
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	7,433,293	973,014	367,137	8,773,445	8,773,445		8,773,445
セグメント利益又は 損失()	513,062	78,075	2,183	588,954	588,954	255,247	333,707

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注)2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、1店舗の一部が道路収用予定のため、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては1,907千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	6,241,566	808,103	304,967	7,354,636	7,354,636		7,354,636
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	6,241,566	808,103	304,967	7,354,636	7,354,636		7,354,636
セグメント利益又は 損失()	56,524	8,928	28,132	37,321	37,321	205,700	168,379

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注)2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	13円51銭	13円65銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()(千円)	289,145	292,072
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()(千円)	289,145	292,072
普通株式の期中平均株式数(株)	21,398,848	21,395,593
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	13円23銭	
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	449,215	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月10日

株式会社安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代表社員
業務執行社員 公認会計士 小笠原 直 印

業務執行社員 公認会計士 入澤 雄太 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。